



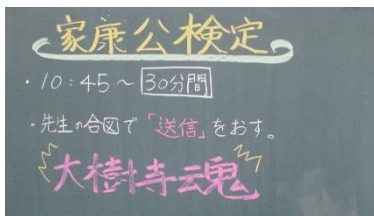
# 大樹のこころ

## ジュニア家康公検定

NHK 大河ドラマ「どうする家康」の放映が始まりました。岡崎市もこれを機会に盛り上げていこうと様々な試みをしています。先日主演の松本潤さんらが本市に来て、第1回の放送をパブリックビューイングで視聴するというイベントもありました。そうしたPR事業の一つとして、新たに始まったのが「ジュニア家康公検定」です。岡崎市では以前から「家康公検定」を実施してきましたが、その小学生版です。主に6年生を対象に家康への知識を高め、誇りをもたせていくことがねらいです。この検定に向けて特別な教材を岡崎市と「徳川家康公に学ぶ会」が共同で作成しました。クイズ形式で家康の業績について学ぶものです。これが優れものでタブレットで楽しみながら学ぶことができ、クイズに正解するとカードがもらえるというシステム。本校は「家康ゆかりの学校」としてのプライドがあります。何としても良い検定結果を残したいと、2学期から検定に向けて子供たちはタブレットを活用して学びを進めてきました。

そのジュニア家康公検定が、本日実施されました。受験者は6年生です。この新たな試みは各方面から注目を集めており、NHK・中日新聞・東海愛知新聞などマスコミ各社が取材にやってきました。検定もタブレットで行い、時間は30分。教室にピンと張り詰めた空気が流れます。テレビカメラや新聞記者の撮影などが入りますが、子供たちの集中力は乱れません。タブレットに視線を向け続けます。

30分の検定が終わると、開放感からか安堵の声が上がりました。担任の先生が手応えを子供たちに尋ねたところ、自信がある子が3分の1程度。本校の子供たちにとっても難問だったようです。検定の様子を視察に来られていた「家康公に学ぶ会」の方は「タブレット教材の問題を、そのまま出題すると満点が续出するので、難易度を少し上げています」と言ってみえました。受験後に感想をインタビューされている子もいました。「これまでの家康学習が生きだし、もっと家康について学んでいきたい」「家康は誇り」といった言葉を聞くことができました。本校が伝統として継続してきた家康学習。それが根付いていることを実感しました。新学期早々のマスコミ取材。今後も続く予定です。それにしても、本校の子供たちは「マスコミ慣れ」していて、堂々として立派だなあと感心しています。



清掃時の避難訓練を実施。各清掃場所から子供たちは立派に避難できました。